

感 染 症

相双地域感染症発生動向調査週報(2025年第18週)

(令和7年4月28日～令和7年5月4日)

令和7年5月9日

定点報告(上段:定点当たり／下段:報告数)、全数報告(報告数)		2025年					2024年 合計	2023年 合計
区 分	疾 病 名	15週	16週	17週	18週	合計		
定点報告	インフルエンザ	2.67	7.33	2.33	4.33	—	—	—
		8	22	7	13	1,208	1,616	2,660
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	1.67	2.67	2.00	0.67	—	—	—
		5	8	6	2	820	3,622	2,663
	RSウイルス感染症	5.00	3.50	1.50	3.50	—	—	—
		10	7	3	7	71	309	425
	咽頭結膜熱	0.50	1.00	0.50	—	—	—	—
		1	2	1	0	33	337	129
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.50	2.00	2.00	—	—	—	—
		3	4	4	0	130	657	237
	感染性胃腸炎	6.50	3.50	9.00	4.00	—	—	—
		13	7	18	8	374	610	988
	水痘	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	2	6	1
	手足口病	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	5	952	129
	伝染性紅斑	—	2.00	1.50	—	—	—	—
		0	4	3	0	17	0	8
	突発性発しん	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	34	182	266
	ヘルパンギーナ	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	19	319
	流行性耳下腺炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	8	13	15
	急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	1	9	13
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	1.00	5.00	—	—	—	—
		0	1	5	0	8	1	3
	クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	2	16	1
	無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ入院	—	—	1.00	—	—	—	—
		0	0	1	0	14	19	10
	新型コロナウイルス感染症(入院)	1.00	—	2.00	1.00	—	—	—
		1	0	2	1	23	120	19
	急性呼吸器感染症(ARI)	43.67	61.00	64.00	72.00	—	—	—
		131	183	192	216	722	—	—
全数報告	百日咳	1	2	0	2	6	0	0

カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

定点把握疾患	<u>RSウイルス感染症 の 流行</u> が見られます。 <u>インフルエンザは今後の動向に注意が必要です。</u>
全数把握疾患	<u>百日咳 2名 (学童1名、10代1名)</u> の報告がありました。

インフルエンザ	相双地域は前週と比較して増加しており、県(県内総数)は前週と比較して減少しました。 県(県内総数)ではインフルエンザB型の報告が半数を占めています。 今シーズンで既に罹患した方でも再び感染することがあるため、引き続き体調管理に留意するとともに、手洗いや定期的な換気等、基本的な感染対策をお願いします。
新型コロナウイルス感染症	相双地域及び県(県内総数)ともに前週と比較して減少しました。 インフルエンザと同様、体調管理や基本的な感染対策をお願いします。
伝染性紅斑	相双地域及び県(県内総数)ともに前週と比較して減少しましたが、警戒は続いています。 伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルスB19による感染症です。感染経路は飛沫感染や接触感染で、約10日の潜伏期間の後、発しんが両頬から体・手・足に広がります。予防には手洗いや、マスク着用等の咳対策が必要です。
つつが虫病	今年第1例目の報告がありました。 ツツガムシ(ダニの一種)に刺された後、1～2週間後に発症する感染症です。春季と秋季が患者発生のピークとなります。症状として、発熱、発疹、刺し口(刺された部位がカサブタに変化)、頭痛、倦怠感、肝機能障害などがあり、39℃以上の高熱を伴って発症します。重症に至ることもあるため、早期治療が重要です。山林や草むらに入る際は長袖、長ズボンの着用と虫よけスプレー等を使用し、野外作業後は入浴、着替えをし、感染を予防しましょう。
百日咳	百日咳(全数報告)については、本県で23名報告がありました。本県では全国的にみると低い感染者数で推移しているものの、第18週の報告数は23(第17週は17)、累計79となりました。今後も流行が拡大する可能性があり、感染状況に注意が必要です。 百日咳菌によって引き起こされる、激しい咳を伴う病気です。特に乳児では重症化のおそれがあり、早期のワクチン接種を推奨します。乳児のいる家庭では、保護者を含めた家庭内の感染に注意しましょう。 感染経路は飛沫感染や接触感染とされており、手洗いやマスクの着用など基本的な感染対策が有効です。
急性呼吸器感染症(ARI)	相双地域は前週と比較して増加しており、県(県内総数)は前週と比較して減少しました。 急性呼吸器感染症(ARI)※が令和7年4月7日から感染症法上の5類感染症に位置付けられ、定点把握の対象となりました。 ※急性呼吸器感染症:急性の上気道炎又は下気道炎を指す病原体による症候群の総称。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス等が含まれる。

(参考・引用)福島県感染症発生動向調査、感染症週報、2025年第18号